

宝塚市就学前教育ビジョン

宝塚市教育委員会 幼児教育センター

令和8年（2026年）4月

目 次

1	宝塚市就学前教育ビジョン策定の趣旨・・・・・・・・・・	1
2	宝塚市における めざす子どもの姿・・・・・・・・・・	2
3	就学前教育の「育ちや学び」を小学校教育へ・・・・・・・・	3
4	幼児期の教育と小学校教育の特徴・・・・・・・・・・	4
5	「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育って ほしい姿（10の姿）」の基本的な考え・・・・・・・・・・	5
6	保幼小連携教育「TAKARA っ子ジョイントカリキュラム」の改訂	7
7	「TAKARA っ子架け橋カリキュラム」について	8

1 宝塚市就学前教育ビジョン策定の趣旨

就学前教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。子どもたち一人ひとりの健やかな成長を支え、変化の激しい社会を生きる力の基礎を育むうえでも、幼児期の学びが小学校以降の教育へと円滑につながる必要があります。

少子化や共働き家庭の増加、育児の孤立化などが進んでいる社会情勢は、本市においても同様であり、就学前施設に期待される役割は、年々重要となっています。また、幼稚園や保育所、こども園などの就学前施設に所属する子どもの約95%が市立の小学校に就学することから、就学前教育の充実、就学前から義務教育への円滑な接続が重要と考えています。

このような背景や、令和5年（2023年）に施行された、こども基本法の「日本国憲法および児童の権利に関する条約の精神にのっとり、次代の社会を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現」の理念も踏まえ、宝塚市教育委員会（以下、市教育委員会とする）では、第2次宝塚市教育振興基本計画において就学前教育の充実を重点施策の一つに掲げています。

このたび、令和8年度（2026年度）を始期とする第2次宝塚市教育振興基本計画（後期計画）の策定に合わせ、就学前施設の関係者が立場を越えて連携・協働し、子どもの未来を拓く学びと生活の基盤を育むための指針となることを目的に、「宝塚市就学前教育ビジョン」を策定します。

2 宝塚市における めざす子どもの姿

自分を大切に 人を大切に ふるさと宝塚を大切にする子ども

めざす子どもの姿は、本市が教育振興基本計画に掲げている基本目標、「自分を大切に 人を大切に ふるさと宝塚を大切にする人づくり」の精神を土台とし、より具体的かつ実践的な指針として定めています。

「自分を大切に」とは、自分のいのちを大切にし、自分の存在を大事に思うこと、そして「人を大切に」とは自分と同じように他の人のいのちも大切にし、また、その存在を大事に考えるという意味です。さらに「ふるさと宝塚を大切にする」とは、自分を見守り温かく接してくれた地域の方や、自分を育ててくれた、ふるさとである宝塚の自然や建物、文化、伝統に感謝の気持ちを抱き、人や物を大切にする心をもった子どもを育てていきたいということを表しています。

自分を大切に

健康や安全に気をつけ、自分の気持ちや考えを大切にする子ども
自己肯定感をもって生活できる子ども

人を大切に

思いやりや感謝の気持ちをもち、相手の立場を考えて行動する子ども
ルールや約束を守り、友達と仲良く協力する子ども

ふるさと宝塚を大切にする

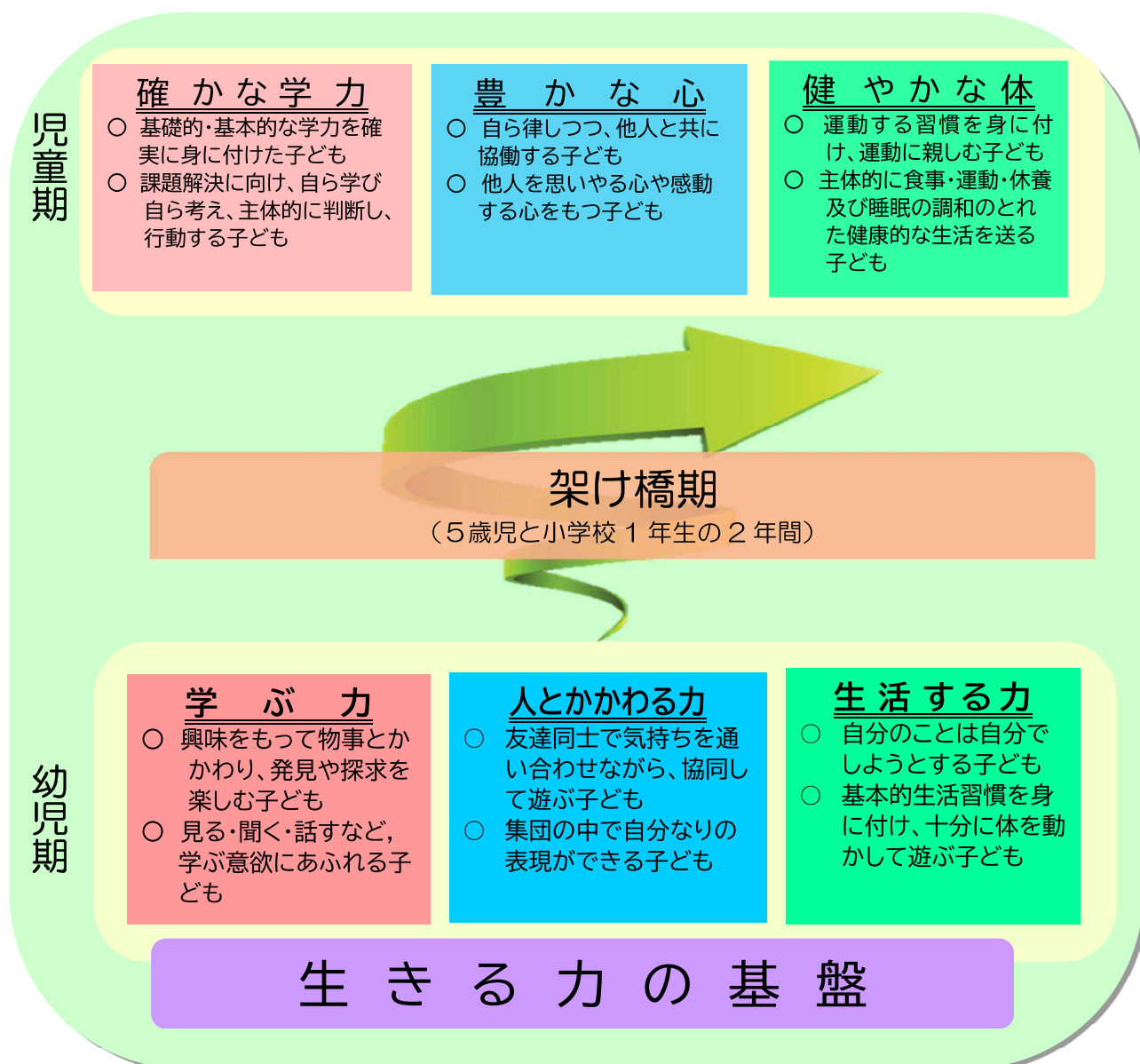
宝塚の自然や文化、地域の人々に親しみと誇りをもつ子ども
地域社会の一員として、主体的にかかわり自分のことから行動しようとする子ども

3 就学前教育の「育ちや学び」を小学校教育へ

乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基盤を培う重要な時期です。幼児期の教育においては、遊びを通して学びの芽生えを培い、小学校ではその学びの芽をさらに伸ばしていくことが重要です。そのためには、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続が欠かせません。

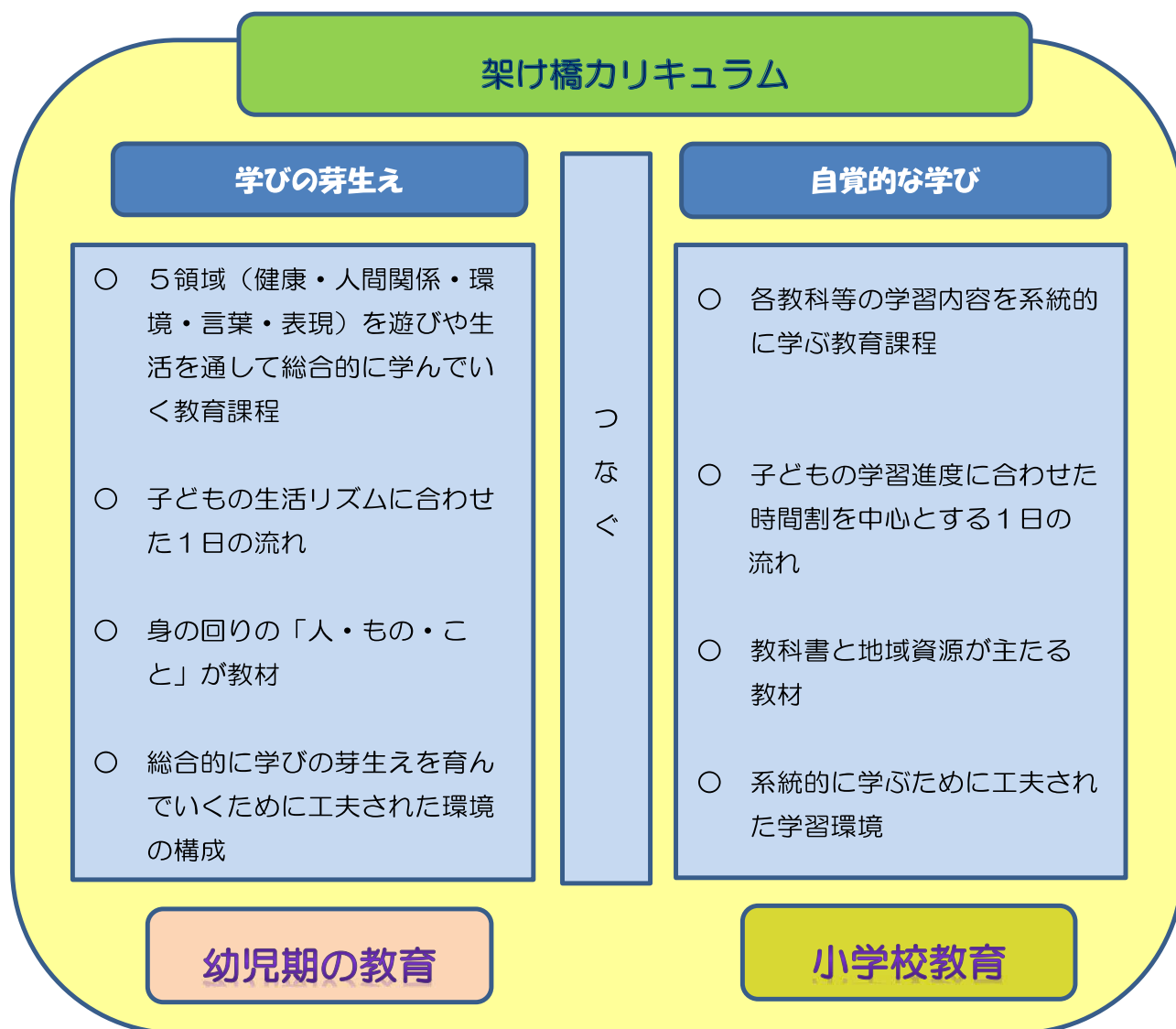
架け橋期(5歳児から小学校1年生までの2年間)では、幼児期から児童期への学びをスムーズにつなげ、子どもの成長や発達をさせていくことが大事です。そのためには、特に5歳児の豊かな体験の積み重ねが、小学校1年生の学びや生活に発展していくということが大事になります。

本市では、「生きる力」を育むために「知・徳・体」を重要な柱としています。幼児期は、遊びという活動全体を通して一体的に育み、児童期では、3つの要素をバランスよく、総合的に育みます。



4 幼児期の教育と小学校教育の特徴

幼児期の教育と小学校教育の間は、子どもの発達の特성에応じて、教育課程の編成や教育方法に違いがあります。そのため、まずは、幼児期の教育と小学校教育が互いの特性や目的を十分に理解し合うことが重要です。



特に、5歳児から小学校1年生にあたる「架け橋期」では、幼児期の「学びの芽生え」を生かし、小学校教育の「自覚的な学び」につながるように、小学校では、教科毎の枠に捉われず内容に関連づけて行う指導を進める中で、子どもの不安や緊張を解消し、育ちや学びの連続性を保障していく必要があります。

5 「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」の基本的な考え

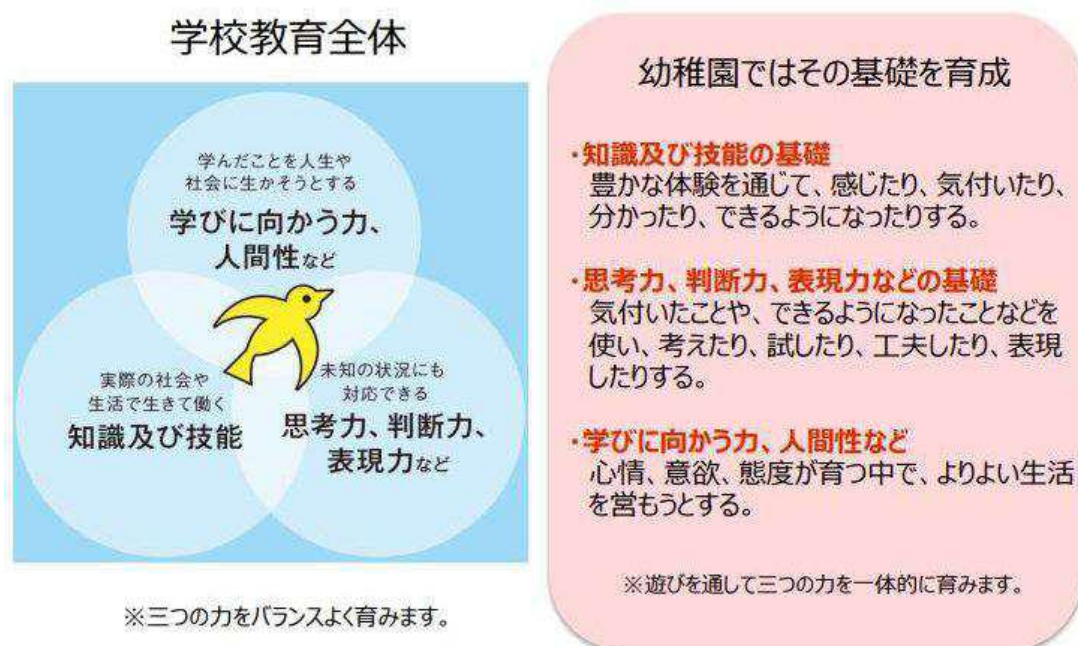
就学前施設と小学校との連携や接続を進める際には、子どもの「育ち」と「学び」の連続性を円滑に保つことが求められます。その実現に向けて「架け橋カリキュラム」の作成が必要とされます。就学前施設と小学校が協働し、ともに検討を重ねていくことが子どもたちの発達を支えていくカギになります。

共通の視点として、主に「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」があります。

就学前教育では、生涯にわたる生きる力の基礎を培うため、「育みたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(以下「3法令」)で示されました。就学前施設では、3法令に示されている通り、遊びを通した総合的な指導により、幼児期にふさわしい「3つの資質・能力」を育むことで、幼児期の終わりには10の姿が見られるようになります。

小学校では、小学校学習指導要領に示されているように、各教科等の指導を通して教育活動の充実を図っていく際に、生きる力として、3つの資質・能力を偏りなく育成することが求められています。また、小学校学習指導要領の総則においても、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導の工夫を行うことが定められています。「10の姿」を幼保小の子どもの育ちを捉える手がかりとして共有していくことが重要です。

なお、「10の姿」は子どもに一律の到達を求めるものや評価項目として用いるものではありません。



育みたい資質・能力(文部科学省 幼稚園教育パンフレットより抜粋)
※ 幼稚園とありますが、保育所(園)・こども園も同様です。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」

(1) 健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり、様々な活動を楽しむ中で、しなければいけないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人の様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図計、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

保育者等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

6 保幼小連携教育「TAKARA っ子ジョイントカリキュラム」の改訂

平成 29(2017)年に改訂・公示された「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」により、3 歳以上児の子どもの教育・保育を行う全ての施設が「幼児期の教育を行う施設」と位置づけられました。これにより、教育にかかわる側面のねらいや内容が一層整合的になるとともに、小学校教育との円滑な接続を図ることが明確に示されました。

同年改訂された「小学校学習指導要領」の総則には、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫することにより、3 法令に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を土台として教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能になるとされています。これは、小学校1年生での学びが「ゼロからのスタートではない」ことを意味し、幼児期の教育を行う施設と小学校が種別を超えて教育課程をつなぎ、資質・能力を連携して育むことで、生涯にわたる「生きる力」を培うことをめざす、という国の方針が示されています。

本市においては、平成 28(2016)年に「TAKARA っ子ジョイントカリキュラム」を作成し、就学前施設と小学校がお互いの教育の特性を理解し、円滑な接続に向けた様々な取り組みを重ねてきました。その後、令和 4(2022)年より国から、幼児期の教育を行う施設および小学校における架け橋期(5 歳児から小学校 1 年生までの 2 年間)の教育の更なる充実を図る「幼保小の架け橋プログラム」の実施が示され、現在4年目を迎えています。

この新たな国の動向と、これまでの実践の成果を踏まえ、引き続き幼児期及び幼保小接続期の教育の充実のため、本カリキュラムを「TAKARA っ子架け橋カリキュラム」とし、見直しを行うこととしました。この改訂を通じて、育みたい資質・能力、遊びと学びのプロセス、教育活動についての相互理解をより一層深め、質の高い接続期教育を実現していきます。

この改訂は、本市の教育目標である「自分を大切に 人を大切に ふるさと宝塚を大切に する人づくり」をめざし、子どもたちが健やかに育つための保幼小連携教育の核となるものです。「TAKARA っ子架け橋カリキュラム」が、すべての教育に関わるものにとって、子どもたちの健やかな育ちを支える指針となり、本市の子どもたちの豊かな学びを支えることをめざします。

7 「TAKARA っ子架け橋カリキュラム」について

- 本カリキュラムは、小学校区を中心とした地域の幼保小接続を実現する上での市の標準カリキュラムです。5歳児と小学校1年生を一体的に捉え、それぞれの教育活動や配慮が見えるように記載しています。

カリキュラム作成のタイミングや進め方は、本カリキュラムを参考にしつつ、各幼児期の教育施設や小学校の状況に応じて異なります。カリキュラムを作成する際は、各地域において、実態に応じ計画・検討してください。

- 地域のめざす子ども像の実現に向けた、相互理解と保育・教育の質の向上を図るため、カリキュラム作成時には、めざす子ども像やそれを実現するための教育活動の在り方を共有しながら協議を重ねていくことを大切にしてください。同時に、相互理解を深めるための保育・授業参観を伴う合同研修会や、互惠性のある子ども同士の交流の実現などにより、保育・教育の質の向上を図っていくことが大切です。

TAKARA っ子架け橋カリキュラム

TAKARA っ子架け橋カリキュラム（5 歳児）

めざす共通子ども像		自分を大切に 人を大切に ふるさと宝塚を大切に子ども 宝塚市の生きる力の基盤 「学ぶ力」 「人とのかかわる力」 「生活する力」を育む										
幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿		健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活とのかかわり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現										
時期		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
期の特徴		進級したことをへの喜びと自覚をもって好きな遊びに取り組む			友達と試したり工夫したりして遊ぶ		自分の力を発揮しながら、友達と協力して遊びを進める		共通の目的をもち、友達と考えあって意欲的に遊ぶ		友達と協力して生活を進め、充実感を味わう	
めざす子ども像につながる具体的な資質・能力	学ぶ力	環境へのかかわり	◆身近な春の自然に触れ、取り入れて遊ぶことを楽しむ ◆身の回りの物や人に関心をもってかわる ◆自分の考えを友達に伝えようとする			◆身近な自然に親しみをもち、季節の移り変わりに興味や関心をもつ ◆様々な素材や用具に親しみ、繰り返し試したり確かめたりして遊ぶ ◆自分の考えを伝えたり、相手の思いに気付いたりする		◆季節の変化に気付き、自然物を使って様々な遊びを楽しむ中で、触れたり数量や形などに気付いたり、比較したり、調べたりする ◆考えたことや感じたことを様々な方法で表現する		◆自然物の美しさや不思議さなど、気付いたことを話したり遊びに生かしたりする ◆目的に応じた材料や素材・用具を選択して、友達と工夫して活用する ◆友達と考え合ったことを工夫して表現する ◆思ったことや考えたことを相手に分かるように伝える		◆園外に出かけ、日常生活に必要な標識や文字などに関心をもち生活に取り入れて使う ◆思いやイメージを様々な方法で表現することを楽しむとともに友達とやり遂げた達成感を味わう ◆友達と考えあったことに自信をもって表現する
		聞く話す伝え合う力										
		表現する力										
	人とのかかわる力	友達とのかかわり	◆5歳児になった自覚をもち、友達とかかわって遊ぶ楽しさを味わう ◆地域に出かけ、地域の自然の美しさや季節の移り変わりを感じたり、地域のひとと挨拶を交わしたりする			◆友達の発見や工夫を知り、自分の遊びに取り入れたい一緒に遊んだりする ◆友達の思いに気付き合い、自分たちでトラブルを解決していこうとする ◆トライやるウィークを通して、地域の中学生と一緒に遊んだり、手伝ってもらったりしてもらったことに喜び、親しみをもつ		◆感じたことや考えたことを出し合い、イメージを共有したり、役割を分担したりして遊びを進める ◆年下の友達に分かるように話したり、思いやりの気持ちをもって遊んだりしようとする ◆行事を通して、地域に親しみをもちかわりを楽しみにしたり喜んだりする		◆共通の目的にむかって友達と考えを出し合い、試したり工夫したりして遊びを進める ◆小学校の図工展や音楽会を見に行き、憧れの気持ちをもつ ◆地域の人々と喜んで触れ合ったり、見守ってくれたりすることに感謝の気持ちをもつ		◆感じたり、考えたりしたことを伝え合いながら遊びを進め、互いのよさを認め合う ◆遊びや生活がよりよくなるように自分なりに考えたり、友達と一緒に取り組んだりする ◆地域の人に自分からかわったり感じたことを伝えたりする
		人とのかかわり										
	生活する力	規範意識	◆年下の友達を誘い、生活の仕方を知らせたり、一緒に遊んだりする ◆身近な人に自分から進んで挨拶をする ◆自分たちの生活の仕方について考えたり、再確認したりする ◆戸外で元気いっぱい体を動かして遊ぶ			◆遊びのルールの必要性に気付き、考えを出し合ったり守ったりする ◆生活に必要なきまりを守る ◆衣服の調整や水分補給など自分の体調を管理しようとする		◆友達と遊びを進める中で自分の気持ちに折り合いをつけながらかわる ◆場に応じてふさわしい態度や行動をとる ◆自分の目標や友達と考えあったことに、最後まで力を出してやり遂げ、満足感を味わう ◆思い切り体を動かし、自分の力を出し切る充実感を味わう		◆遊びの場面や状況に応じて、自分たちでルールを作ったり、遊びがおもしろくなる方法を考えたりする ◆失敗してもあきらめず、どうしたよいか考え、繰り返し挑戦しようとする ◆一日の見通しをもち、友達と考え合って生活する ◆体の動きを調整し、遊具や用具を使いこなそうとする		◆成長した喜びや感謝の気持ち、就学することへの期待や自信をもつ ◆修了・就学に向けて、生活リズムを整え、身の回りの整理や諸準備をする ◆寒さに負けず、進んで戸外で遊ぶ
基本的生活習慣												
展開される活動		興味関心に基づく主体的な遊びや生活			季節ごとの自然に触れ、興味やかかわる意欲につながる遊びや生活			数量や図形などへの興味や関心につながる遊びや生活			ことばを豊かにする遊びや生活	
		体を動かすことへの興味や意欲につながる遊びや生活			身近な地域とつながり、遊びや生活に必要な情報を取り入れたり、伝え合ったりする遊び			音楽や絵画表現など感性を働かせ、表現することへの喜びや楽しさを味わう遊びや生活				
指導上の配慮事項	保育者のかかわり	◆一人一人の幼児に細やかに接し、信頼関係をつくる ◆生活の仕方や遊具・用具の置き場などを話し合って決め、自分たちで生活の場を整えていけるようにする			◆幼児の発見や喜び、驚き、感動、疑問などを大切に受け止め共感し、意欲や好奇心につながるようにする		◆様々な遊びに挑戦しようとする気持ちやめあてに向かって取り組む姿を支え、やり遂げた満足感や達成感が味わえるようにする		◆友達と考え合ったりイメージを広げたりしながら、互いのよさに気付いていけるように支える		◆園生活を振り返る機会をもち、周りの人々に感謝の気持ちをもてるようにする ◆一年生になる期待を膨らませ、新しい生活に意欲的に向かえるように幼児の気持ちを支え、自信につながるようにする	
	環境構成	◆身近な自然に触れて遊ぶ機会をもち自らかわって遊んだ喜びや感動を大切に ◆動植物に対する愛情が育つよう観察しやすい環境づくりや言葉かけをし、成長の変化などに気付かせる			◆幼児の興味に寄り添いながら、繰り返し試すことができるように様々な素材を用意し、工夫が生まれるような用具や材料に気付かせていく ◆互いに伝え合ったり認め合ったりする場を大切に、友達のよさに気付いていけるようにする		◆一人一人の発想を生かし、必要なルールを自分たちでつくれるよう考えを出し合う場を設ける ◆幼児の興味や必要に応じて、試したり挑戦したりできるような場を子どもと共に構成していく		◆時期や機会を逃さず自然物や自然現象に触れられるようにし、変化への気付きや興味、関心につながるようにする ◆年下の友達と共に楽しんで遊べるように、5歳児がその支えになれる雰囲気をつくる		◆日常生活の中で文字や数に触れるよう環境を整える ◆自分や友達の成長や良さに気付き、さらなる自信につながるよう、写真や動画等を効果的に活用する	
家庭地域との連携		子どもの成長を伝え信頼関係を築く			連携継続の意義を保護者や地域に発信する			小学校に向けて、生活習慣の見直しや子どもの成長をともに確認し、子どもとともに不安を軽減できるようにする				
子どもの交流		プレ一年生 授業参観 交流会										
教職員の交流		交流の打ち合わせ			子どもの交流の事前事後打ち合わせ		公開保育	合同研修会	引継ぎ連絡会			

TAKARA っ子架け橋カリキュラム（5 歳児）

めざす共通子ども像		自分を大切に 人を大切に ふるさと宝塚を大切に子ども 宝塚市の生きる力の基盤 「学ぶ力」 「人とのかかわる力」 「生活する力」を育む											
幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿		健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活とのかかわり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量や図形、標識や文字などへの関心・興味・関心による伝え合い 豊かな感性と表現											
時期		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13		
期の特徴		進級したことをへの喜びと自覚をもって好きな遊びに取り組む			友達と試したり工夫したりして遊ぶ			自分の力を発揮しながら、友達と協力して遊びを進める					
めざす子ども像につながる具体的な資質・能力	学ぶ力	環境へのかかわり		◆身近な春の自然に触れ、取り入れて遊ぶ ◆身近な自然に親しみをもち、季節の移り変わりを楽しく感じる ◆身の回りのことを考える		◆身近な春の自然に触れ、取り入れて遊ぶ ◆身近な自然に親しみをもち、季節の移り変わりを楽しく感じる ◆身の回りのことを考える		◆季節の変化に気づき、自然物を使って様々な遊びを楽しむ中で、触れたり数量や形など気付いたり、比較したり、調べたりする ◆考えたことや感じたことを様々な方法で表現する		◆思ったことや考えたことを相手に分かるように伝える		◆むとともに友達とやり遂げた達成感を味わう ◆友達と考えあったことに自信をもって表現する	
	人とのかかわる力	友達とのかかわり		◆5歳児になっても遊んで遊ぶ ◆地域に出かける機会を増やし、季節の移り変わりを体験し、挨拶を交わす		◆5歳児になっても遊んで遊ぶ ◆地域に出かける機会を増やし、季節の移り変わりを体験し、挨拶を交わす		◆感じたことや考えたことを出し合い、イメージを共有したり、役割を分担したりして遊びを進める ◆年下の友達にやさしく接し、思いやりや気持ちはもてる ◆園行事を通して、地域の人と交流し、楽しみにしたり喜ぶ		◆共通の目的にむかって友達と考えを出し合い、試したり工夫したりして遊びを進める		◆感じたり、考えたりしたことを伝え合いながら遊びを進め、互いのよさを認め合う ◆遊びや生活がよりよくなるように自分なりに考えたり、友達と一緒に取り組んだりする。 ◆地域のの人に自分からかかわったり感じたことを伝えたりする	
	生活する力	規範意識		◆年下の友達を誘い、生活の体言を知らせたり、一緒に遊ぶ ◆身近な人に自分から挨拶を交わす ◆自分たちの生活のルールを確認したりする ◆戸外で元気よく遊ぶ		◆年下の友達を誘い、生活の体言を知らせたり、一緒に遊ぶ ◆身近な人に自分から挨拶を交わす ◆自分たちの生活のルールを確認したりする ◆戸外で元気よく遊ぶ		◆友達と遊びを進める中で自分の気持ちに折り合いをつけながらかかわる ◆場に応じてふさわしい態度や行動をとる ◆自分の目標や友達と考えあったことに、最後まで力を出してやり遂げ、満足感を味わう ◆思い切り体を動かし、自分の力を出し切る充実感を味わう		◆遊びの場面や状況に応じて、自分たちでルールを作ったり、遊びがおもしろくなる方法を考えたりする ◆失敗してもあきらめず、どうしたよいか考え、繰り返し挑戦しようとする。 ◆一日の見通しをもち、友達と考え合って生活する ◆体の動きを調整し、遊具や用具を使いこなそうとする		◆成長した喜びや感謝の気持ち、就学することへの期待や自信をもつ ◆卒園・就学に向けて、生活リズムを整え、身の回りの整理や諸準備をする。 ◆寒さに負けず、進んで戸外で遊ぶ	
展開される活動		興味関心に基づき、遊びや学びのプロセスを深めるため、保育者のかかわり、環境構成にどのような工夫があるか、具体的に考えていこう。			身近な地域とつながり、遊びや生活に必要な情報を取り入れたり、伝え合ったりする遊び			数量や図形などへの興味や関心につながる遊びや生活			ことばを豊かにする遊びや生活		
指導上の配慮事項	保育者のかかわり	◆一人一人の幼児の個性や興味・関心をつくる。 ◆生活の場面で、遊びや学びのプロセスを深めるため、保育者のかかわり、環境構成にどのような工夫があるか、具体的に考えていこう。		感動、疑問などを大切に受け止め、好奇心につながるよう工夫する		◆様々な遊びに挑戦しようとする気持ちやめあてに向かって取り組む姿を支え、やり遂げた満足感や達成感が味わえるようにする		◆友達と考え合ったりイメージを広げたりしながら、互いのよさに気付いていけるように支える		◆園生活を振り返る機会をもち、周りの人々に感謝の気持ちをもてるようにする ◆一年生になる期待を膨らませ、新しい生活に意欲的に向かえるように幼児の気持ちを支え、自信につながるよう工夫する			
	環境構成	年間計画に子ども同士の交流を位置付け、交流する対象の学年や交流時期、交流のねらい等を共通理解していきましよう。		就学前施設と小学校等の先生同士の交流を年間計画に位置付け、子どもの育ちを共有していきましよう。		保護者の悩みや不安に寄り添い、架け橋プログラムの実践が、保護者の不安軽減につながるよう、保幼小連携や接続の意義、実践内容を保護者や地域に発信していきましよう。		保護者の悩みや不安に寄り添い、架け橋プログラムの実践が、保護者の不安軽減につながるよう、保幼小連携や接続の意義、実践内容を保護者や地域に発信していきましよう。		保護者の悩みや不安に寄り添い、架け橋プログラムの実践が、保護者の不安軽減につながるよう、保幼小連携や接続の意義、実践内容を保護者や地域に発信していきましよう。			
	子どもの交流	ブレー年生	授業参観	交流会	連携せつぞくの意義を保護者や地域に発信する		小学校に向けて生活習慣の見直しや子供の成長をともに確認し子どもと共に不安軽減できるようにする						
教職員の交流		交流の打ち合わせ		子どもの交流の事前事後打ち合わせ		公開保育		合同研修会		引継ぎ連絡会			
家庭地域との連携		学校生活での様子を伝え保護者が安心できるようにする		連携せつぞくの意義を保護者や地域に発信する		小学校に向けて生活習慣の見直しや子供の成長をともに確認し子どもと共に不安軽減できるようにする							

めざす共通子ども像		自分を大切に 人を大切に ふるさと宝塚を大切に子ども 宝塚市の生きる力の基盤 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成												
幼児期の終わりにまでに育ってほしい10の姿		健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活とかかわり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現												
時期		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
期の特徴		新しい生活に自分らしさを発揮し、仲間と安心して学びに向かう			学校や学年の友達とかかわりながら、自ら考え、学ぼうとし、興味関心を広げる			学習活動を通して、人とかわりながら、自分の課題解決に向けて意欲的に学んでいく。			自分自身の生活を振り返る活動を通して、自分の成長を自覚し、次への成長に期待をもつ			
目指す子どもの具体的な資質・能力	確かな学力	環境へのかかわり	◆地域の自然に触れ、季節の変化や特徴を確かめながら身近な自然を感じる ◆分かったことや見つけたこと、感じたことを友達に伝える			◆植物の栽培を通して、生命をもっていることや成長に気付く ◆声の大きさと速さに気を付けて、友達が聞きやすいように話す ◆必要なことを伝える際にものの数量や形状などを相手に分かるように伝えたり違いや共通点見つけたりする			◆様々な活動や人々に関心をもち、かわることの良さや楽しさがわかり、課題に向かって工夫しようとする ◆伝えたいことをグループで話し合ったり、順序を整理し文章で表現したりする ◆友達の頑張りを認めたり良さを見つけたりして伝え合う			◆一年間を振り返り、できるようになったことや役割が増えたことに気付く ◆考えや気持ちを多様な方法で伝え合ったり振り返ったりする		
		聞く話す伝え合う力												
		表現する力												
	豊かな心	人とかかわり	◆友達や先生に進んで挨拶したり、親しみをもってかわったりする ◆楽しく生活するために大切なルールを理解し守る			◆友達と協力しながら考えをまとめたり、活動内容を決めたりする ◆生活のリズムを身に付け、決められた時間や基本的ルールを守って安全に過ごす			◆友達と互いに励まし合いながら、同じ活動にむかって主体的に活動を進めていこうとする ◆地域で出会う様々な出来事や人に興味をもち進んでかわろうとする			◆伝え合いを通して身近な人とかかわることの良さや楽しさが分かる		
		規範意識												
	健やかな体	運動	◆自分でできることや新たな活動に、進んで取り組もうとする ◆身の回りの整理や活動の準備片付けなどに自分から取り組む			◆生活や学習での係や当番活動などに意欲的に取り組む			◆めあてに向かって進んで体を動かし運動し、元気に生活する			◆家庭、地域、友達など支えてくれている人への感謝の気持ちを持ち、自分の成長に期待をもって意欲的に生活しようとする		
		健康的な生活												
	生活科を中心とした各教科等の単元構想など		★ 就学前施設での子どもの育ちと学びを生かし、より充実した授業になるようにする ★ 生活科を中心に、総合的・関連的な指導の工夫や弾力的な時間割を設定する ★ 個と集団を児童同士の学び合いを重視し、試行錯誤しながら、理解を深めるような単元構成や学習環境に留意する											
			生活科「いくぞ！がっこうたんけんたい」 生活科「わたしのはなをそだてよう」 生活科「なつとなかよし」 生活科「いきものだいすき」 生活科「あきとなかよし」 生活科「じぶんでチャレンジだいさくせん」 生活科「ふゆとなかよし」 生活科「もうすぐ2年生」											
			国語 算数 音楽 図画工作 体育 国語 算数 音楽 図画工作 体育											
指導上の配慮事項	教師のかかわり	◆学校生活の流れやきまり、学習の流れやルールを確認しつつ、園所での経験が生かせるように一緒に考え進める			◆一人一人の子どもの内面理解に努めながら、自己肯定感を高めよさや可能性を引き出す個に応じた適切な声掛けや支援を行う			◆つぶやきや活動の様子から、次の活動へつなげたり、発想を広げたりして主体的・対話的で深い学びの実現に向け、相手や仲間を意識した活動ができるようにする			◆適切に振り返りを行い、基礎的、基本的な知識技能の確実な習得を図る			
	学習環境づくり	◆絵本コーナーや自由遊びのスペースなど新しい環境の中でも落ち着いて過ごすことができるように環境を設定する ◆一日の流れや登校後の準備など、見通しをもって行動できるような視覚的に分かりやすい表示を掲示する			◆主体的に学びに向かえるように活動に応じて教室の空間づくりを工夫するなど、活動し自己発揮できるよう環境を設定する ◆体験活動を通した気付きを気軽に自分たちで調べるできるように、ICT を自分から進んで活用できる環境を整える			◆友達と共通の目的に向かって学習を進めていくことができるように、単元のまとまりや見通しを確かめ、学習や活動に向えるようにする。			◆ICT を有効に活用しながら、学習や生活の足跡を意識して自らの成長を振り返られるようにする			
子どもの交流		授業参観 交流会												
教職員の交流		交流の打ち合わせ 子どもの交流の事前事後打ち合わせ 公開保育 合同研修会 引継ぎ連絡会 幼保小連絡会議												
家庭地域との連携		学校生活での様子を伝え保護者が安心できるようにする 連携接続の意義を保護者や地域に発信する 進級に向けて就寝起床時間、家庭での学習時間を振り返り、自分で決めた目標に向かって生活を送ることができるように協力をお願いする												

めざす共通子ども像		自分を大切に 人を大切に ふるさと宝塚を大切に子ども 宝塚市の生きる力の基盤 「確かな学力」 「豊かな心」 「健やかな体」の育成										
幼児期の終わりにまでに育ってほしい10の姿		健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活とかかわり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量や図形、標識や文字などへの関心 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現										
時期		4	5	6	7	8	9	10	11	12	2	3
期の特徴		新しい生活に自分らしさを発揮し、仲間と安心して学びに向かう			学校や学年の友達とかかわりながら、自ら考え、学ぼうとし、興味関心を広げる			学習の機会を捉え、学びに向かう				
目指す子どもの具体的な資質・能力	確かな学力	環境へのかかわり	◆地域の自然に触れ、季節の変化や特徴を確かめながら身近な自然を感じる ◆分かったことを伝える			◆植物の栽培を通して、生命をもっていることや成長に気付く ◆聞きやす伝える			◆様々なことを学び、伝える ◆友達と協力し合いながら、自ら考え、学ぼうとし、興味関心を広げる			
		聞く話す伝え合う力										
		表現する力										
	豊かな心	かかわり	◆友達や先生と協力し合いながら、自ら考え、学ぼうとし、興味関心を広げる			活動内容 ◆聞きやす伝える			◆友達と互いに励まし合いながら、同じ活動にむかって主体的に活動を進めていこうとする ◆地域で出会う様々な人々と関わり、互いに理解し合おうとする			
規範意識		◆ルールを遵守し、公共の場での行動に気を配る						◆5歳児の発達の様子を見据え、一年生の発達にふさわしい主体的な学び、自覚的な学びへのプロセスを大切に、具体的に示していきましょう。				
健やかな体	運動	◆自分でできることや新たな活動に、進んで取り組もうとする ◆身の回りの整理や活動の準備片付けなどに自分から取り組む			◆生活や学習での係や当番活動などに意欲的に取り組む			◆めあてに向かって進んでいく				
	健康的な生活											
生活科を中心とした各教科等の単元構想など		★ 就学前施設での子どもの育ちと学びを生かす ★ 生活科を中心に、合科的・関連的な指導の工夫を ★ 個と集団を児童同士の学び合いを重視し、課題を共有し、互いに理解し合おうとする ★ は、架け橋カリキュラムを考えるうえでの重要な考え方を示しています。 ・下段については、一年生の生活科の教科書から具体的な単元をあげています。生活科を中心とした各教科の合科的、関連的な指導の工夫をしていきましょう。 幼児期の経験を踏まえた活動は、児童の安心も学びの深まりも実現できることを意識して各教科の単元を構想していきましょう。 生活科「いくぞ！がっこうたんけんたい」 生活科「わたしのまわり」 生活科「ふゆとなかよし」 生活科「もうすぐ2年生」 生活科										

实践事例

実践1 保育者・教師による相互理解

架け橋カリキュラムでは、5歳児までの遊びの中の学びを小学校以降で「どう生かすか」がこれからの保幼小接続において最も重要です。子どもの生活や教育方法が異なる幼児期の教育と小学校教育は、そこに携わる職員同士がそれぞれの教育観を話し合い、理解し合っていくことがなによりも大切です。

安倉幼稚園の取組

1 取組内容

- 安倉小学校の教諭に保育参観の依頼をする。
- 日程 令和7年(2025年)11月6日(木)・7日(金)・12日(水)・14日(金)
9:30～10:30 秋の好きな遊び(鬼ごっこ、どんぐり転がしの遊びなど)
※ この時間以外でも、保育時間中はいつでも来てもらってもよいと案内する。
- 学びの見取りシート(※資料1)を作成する。幼児期に育みたい資質・能力の3つの柱を視点にし、幼児の学んでいる姿を捉え、その学びが小学校でのどのような力につながるかを記入してもらう。
- 参加した教諭は、学びの見取りシートに、気づいたこと・感じたことを記入する。
(1年担任2名、通級指導の先生、6年担任、教頭先生、その他にも2名が、保育参観に参加)

2 保育参観後に小学校教諭が記入した「学びの見取りシート」のまとめより

	幼児の遊びを通しての学びの姿 小学校教諭の捉え	幼児期の教育から小学校教育への 学びのつながり
知識・ 技能の 基礎	・自分の知っている文字を書いて遊びに必要なものを作る ・はさみやテープボンドなどを正しく使い、作品を作る姿 ・どんぐり転がしで何個転がすか考えたり、鬼ごっこで時間を計ったりすること ・体を存分に動かし、周りをよく見て、考えながら遊ぶ鬼ごっこ ・切り貼りなどの手先を使った活動 ・思い通りに体を動かす ・遊びのものを自分たちで片づける姿	・文字への興味関心はひらがなやカタカナの学習につながる。 ・図工などの作品作りで、用途に合ったものを選ぶ。 ・時間の長さ、量の多さ、数の増減など数量の感覚をもつことができる ・姿勢保持 ・字を書くこと ・安全に遊ぶ力 ・自分の引き出しやロッカーの整理などができる力
思考力・ 判断力・ 表現力の 基礎	・鬼ごっこで、どうしたら捕まらないか、卵を守るかなど、考えながら遊び、幼児と教師と一緒に共有しながら進める ・興味のあるものを、自分たちの思うように形にしていくなかで、工夫する姿 ・遊びの中で困ったときにどうすればよいか考えたり、作りながら試したり工夫したりする姿 ・どんぐり転がしで、物の物理的な動きを感覚的につかんでいる姿 ・どんぐりが最後まで転がるにはどうすればよいのか、何度も挑戦し工夫する姿 ・友達とピアノや声に合わせて歌を歌う姿	・自分の思いを相手に伝える言語活動 ・よりよい作品をつくらうという意欲 ・課題を自分で考え解決しようとする力 ・自分だけでなく他者との意見の違いから課題を解決しようとする力 ・自分の体験と教科書の内容をつなげて考えることができる ・先を見通す力 ・リズムに合わせて踊る、歌う、体を操作する力

学びに向かう力 ・人間性等	・自分のイメージしたものを作ろうとする、鬼ごっこで勝負がついた後に作戦を立てたり、すぐに次の鬼ごっこを始めようとしたりする、作りたいものを集中して作るなど、意欲的な姿 ・自分の好きな遊びをつきつめていく姿 ・チームで勝ったときの嬉しさを感じる姿 ・役割を決め、協力して遊ぶ姿 ・うまくいかないときに次にどうするか考える姿 ・困っている友達を助ける姿 ・自分がやりたいことを友達と相談して決める姿 ・友達とやりたいことが違ったときに、言葉で思いを伝え、互いに納得する姿 ・友達と仲良くなかかわる姿	・課題に対して主体的に取り組む姿 ・学習に対して「やってみたい」と前向きに思える気持ち ・みんなで学習することが楽しいと感じられる気持ち ・工夫する力、粘り強く物事に取り組む力 ・集団の中で、助け合いながら課題に取り組む力 ・友達と話し合いで解決する力 ・相手を思いやる力
--------------------------	---	--

<小学校教諭からみた保育の感想>

○ 子どもたちに自然に考えさせる遊びを取り入れていると思った。小学校低中学年でも引き続きやっていてもいいのではないかなと思うものが多かった。

○ 子どもが「こんなものがあつたらいいな」「こんなものが使えそう」と思うものが周りにたくさんある環境がすばらしい。一人一人が自分の思いを大切に「できた!」と達成感をもちながら活動している様子が勉強になった。

○ 「どうしたらできる?」と子どもたちに考えさせたり「〇〇さんに伝えてみたら」と子ども同士をつないだりする先生の声掛けが勉強になった。

○ 子どもたちが集中して作業していたことが印象的だった。遊び道具のことや作品作り、鬼ごっこなどで、子どもたちの話し合いを援助する先生の姿や「子ども→先生→子ども」ではなく、子ども間で思いを伝えるようにとアドバイスしている先生の姿を見て、子どもの成長の支援をしていると思った。

<連携からの学び>

- ・ 小学校の先生方に保育を見てもらう日を何日も設定して声を掛けることで、それぞれの先生が行きやすい日に参加してもらうことができ、思った以上の先生が来てくれた。遊びをつくっていく段階を見てもらい、子どもたちが考え、試行錯誤しながら遊びの中で学んでいる姿をたくさん見つけてもらうことができた。
- ・ 小学校の先生に文書で小学校につながる力を書いてもらうことで、実際に保育していても、気づかないことも見てくれたので、自分自身も、小学校へのつながりを再確認することができた。
- ・ シートを作り視点を提示したことで、小学校の先生に「学び」を意識して保育を見てもらうことができた。また、子ども同士の交流とは別の機会を設けたことで、小学校の先生にじっくり保育を見てもらうことができた。
- ・ 小学校の先生は、子どもたちの意欲や粘り強さといった「非認知能力」の育ちを丁寧に汲み取ってくださっていた。一方で、幼児期の教育と小学校教育の形態の違いから、遊びの中の学びが教科学習のどの場面につながるかといった具体的な学びのつながりについては、今後も共有していく必要があると感じた。
- ・ 「遊び」をじっくり見てもらう機会をもつことで、保育者の環境構成の意図や、子どもが自ら考えたり、子ども同士をつないだりする援助のあり方を小学校の先生が、より深く読み取ってくださるのだと再認識できた。今後も互いに理解を深めていこうとする姿勢を大切にしていきながら、幼稚園側として環境構成や意図、子どもが自ら学びに向かう姿を発信し続けていきたい。

保育参観では、一年生や低学年の担任だけではなく、管理職も含めた全教職員が都合のつく日時に参観・体験することで、園での子どもの育ちと保育者の環境づくりを学校全体で共有することができ、幼児期の教育とのつながりのある教育課程の構築を充実させることにつながっていきます。

※資料1

幼児は遊びの中で、様々なことを学んでいます。保育を見ていただいた中で捉えた幼児の学びについて記入してください。

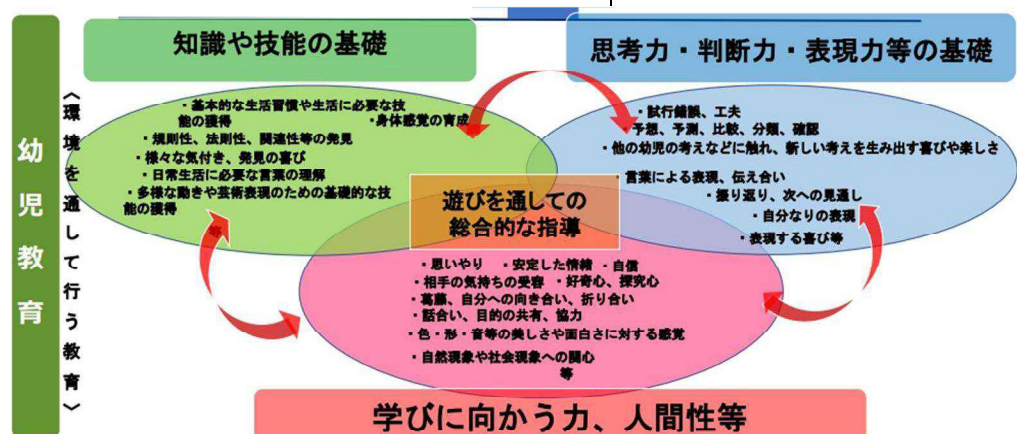
記入者 担当（学年等）：

名前：

学びの見取りシート

	幼児の姿	小学校で発揮される力・姿
知識・技能の基礎		
思考力・判断力・表現力の基礎		
学びに向かう力・人間性等		

幼児期に育みたい資質・能力
「3つの柱」



保育を参観していただいた感想など、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました

実践2 スタートカリキュラムの編成

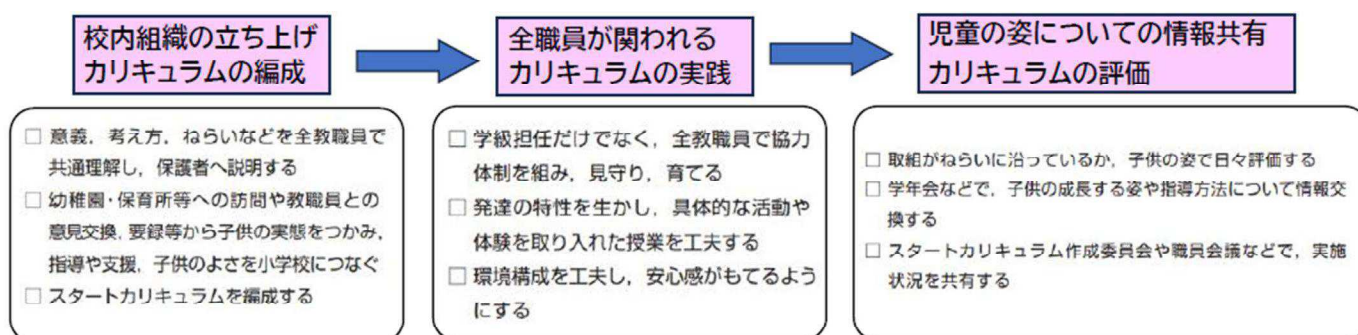
スタートカリキュラムでは、子どもが親しみやすくゆったりとした時間の流れの中で一日の活動の見通しがもてるように取り組んでいます。

未成小学校の取組

1 (1)スタートカリキュラム作成にあたっての3つの視点

「安心」・「成長」・「自立」をめざす

(2)スタートカリキュラムのマネジメント



2 スタートカリキュラムの運用スケジュール

第1～2週：わくわく1ねんせい

第3～4週：のびのび1ねんせい

- ① 一人一人が安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとした学習
- ② 生活科を中心とした学習
- ③ 国語、算数などを中心とした学習

入学式	第1週	第2週	第3週	第4週
	【わくわく1ねんせい】 幼児期の経験を基にした 生活科・学級活動を中心とした カリキュラム		【のびのび1ねんせい】 小学校で必要とされるスキルの定着を 目指した生活科・他教科等を包括した カリキュラム	

3 すえなりスタートカリキュラム内容

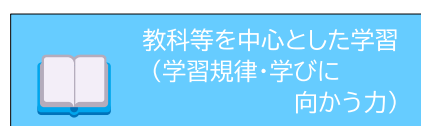
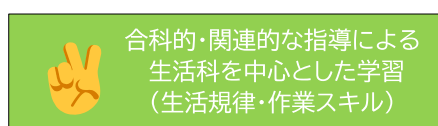
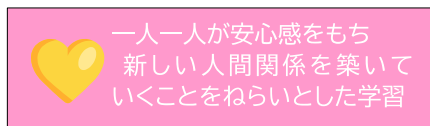
(1) カリキュラム編成・指導・児童観察における重点項目

すえなりスタートカリキュラム編成・指導・児童観察に当たっては、以下の3項目を規準として行う。入学当初は、重点項目①の内容を重視し、徐々に②③へとステップアップしていくカリキュラム編成とする。

【重点項目①】みんななかよし

【重点項目②】わくわく小学校生活

【重点項目③】のびのび学習



1年生スタートカリキュラム

	わくわく1ねんせい				のびのび1ねんせい	
	4月(第1週)		4月(第2週)		4月(第3週)	
	カリキュラム	重点項目	カリキュラム	重点項目	カリキュラム	重点項目
生活	あいさつ・自己紹介	♡ 🍷	休み時間の約束	♡ 🍷	時計となかよし	🍷
	いい姿勢・いい返事	♡ 🍷	教室にあるもの	🍷	今、何時？ 何する時間？	🍷
	すきなもののなかに	♡	学校たんけん	♡ 🍷	たのしい給食	♡ 🍷
	教室のきまり	♡ 🍷	運動場たんけん	🍷	食事のマナー	♡ 🍷
	生活のきまり	♡ 🍷	いろんな先生	♡	1年生を迎える会の練習	♡ 🍷
	トイレ・手洗い場の使い方	🍷	教室をピカピカに	♡ 🍷	そうじ名人になろう	♡ 🍷
音楽	春の歌	♡	春の歌	♡	1年生を迎える会の歌	♡
	校歌	♡	校歌	♡		
			リズムで遊ぼう	♡ 🍷		
図工			クレパスでかこう	🍷	ちぎってはろう	🍷
			ねん土あそび	🍷	はさみで ちょきちょき	🍷
道徳	こんなとき どうする？	♡ 🍷	こんなときどんな 気持ち？	♡ 🍷	こんなとき なんていう？	♡ 🍷
体育			じょうずにならぼう	♡ 🍷	じょうずにならぼう	♡ 🍷
			遊具の使い方	♡ 🍷	かけっこ ボールあそび	♡ 🍷
学活			みんなであそぼう	♡	みんなであそぼう	♡
国語	図書・読み聞かせ		自分の名前を かこう		ひらがな	
			声に出して読もう		声に出して読もう	
算数			図書・読み聞かせ	♡	図書・読み聞かせ	♡
					数を数えよう	

参考：「スタートカリキュラムミニブック 子供の学びと育ちをつなぐために」
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成27年1月

幼児期から児童期にかけての子どもの発達には、「自分とのかかわりを通して、総合的に学ぶ」という特徴があります。この特徴を踏まえ、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の充実を図ることが重要です。

この「生活科を中心とした合科的・関連的な指導の充実」については、『『小学校学習指導要領解説総則編』(平成29年)第3章第2節4学校段階等間の接続(1)幼児期の教育と接続及び低学年における教育全体の充実』に、以下のように示されています。

小学校においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫することにより児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かい、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を更に伸ばしていくことができるようにすることが重要である。

その際、低学年における学びの特質を踏まえて、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育むことを目的としている生活科と各教科等の関連を図るなど、低学年における教育課程全体を見渡して、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるように工夫する必要がある。特に、小学校入学当初においては、幼児期の遊びを通じた総合的な指導を通じて育まれたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、スタートカリキュラムを児童や学校、地域の実情を踏まえて編成し、その中で生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うことが求められる。

実践3 小学校1年生の円滑な学校生活を支えるための指導・支援体制

良元小学校の取組

1 研究主題の設定理由

小学校へ入学する子どもは、新しい友だちとの出会いや学びへの期待、遊びへの楽しみなど多くの希望を持っている。一方で、環境の変化や集団生活への適応に不安を感じる子どもも少なくない。国は幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、「幼保小の架け橋プログラム」を推進している。小学校のスタートカリキュラムは、園所等と小学校の教育の段差を不安なく乗り越え、期待感に変えて柔軟に対応する力を育むために有効である。

平成29年改訂の小学校学習指導要領では、第1学年の入学当初に生活科を中心とした合科的な指導が、幼児教育から小学校教育への移行を支援することが示されている。また、国語や音楽、図画工作などの指導計画でも、幼稚園教育で扱う言葉や表現との関連を重視することが求められている。令和5年の中央教育審議会の答申では、すべての子どものウェルビーイングを高める観点から、教育課程や指導計画の編成・実施・評価・改善が示されている。

本校では学校教育目標「みんなにとって良いことを みんなが元気になることを～ともに考え、学び合おう～」の実現に向けて、本年度より1年生を対象にスタートカリキュラムに基づく教育活動を始めた。チーム・ティーチングや保護者・地域との連携を通して、多くの大人が児童の成長に関わる体制を整え、自己肯定感を高め、安心して学びに向かう児童の育成を目指している。こうした背景から、子どもの発達段階に応じた無理のない学びの移行

と「連続性」を重視した研究主題の設定が必要だと考えた。

2 スタートカリキュラムの実践の重点項目

児童にとって、「小学校」という新しい社会での生活が始まる。幼児期では、自ら動きやすくなるような環境の中で育ってきている。いろんな園所等や環境で育った児童は、小学校教員が当たり前としていることに馴染みのないこともある。児童の発達段階や園所等での生活からの円滑な接続のため、4月の職員会議や部会等で全教員とスタートカリキュラムについて共通理解した。児童が安心して主体的に力を発揮するための「スタートカリキュラム」の開始にあたり次の3点を重点項目とした。

①ゆったりたっぷりとした時間

②わかりやすい表示

③協力体制づくり

- ・教員による指導体制
- ・6年児童の協力
- ・学校支援ボランティアとの連携
- ・ゲストティーチャーの招聘

3 具体的な取組①:ゆったりたっぷりとした時間

登校から下校まで過ごす時間は、児童の発達の特性を踏まえて、時間割や学習活動を工夫した。

●登校から朝の会までの時間

集団登校では、1年生は高学年の児童と一緒に登校するため、班長の後ろに並び、後ろには2～5年生がいる。これにより、安心して登校できる環境が整っている。教室に入ると自

席につき、ランドセルの中身を机に移して 1 日の準備をする。入学直後は 6 年生が 1 年生のお世話を担当し、特別なことをするのはなく、自分が 1 年生の時にしてもらったことをそのまま実践するよう伝えている。室内遊びやトイレへの同行、ロッカーの場所を教えるなど、日常のちょっとした支援が児童の精神的安定に大きく寄与している。困っている様子を見かけた時には声をかけ、先輩としてやさしく接する姿が多く見られる。「やさしくしてくれた」「教えてくれた」という経験が、1 年生の不安感や戸惑いを和らげ、小学校は困った時に誰かが助けてくれる安心できる場所だと感じることに繋がっている。

●朝の会から1時間目の時間

	第1週 わくわく1年生	第2週 のびのび1年生
8:30～ 9:15頃	・あいさつのしかた ・ひきだしのつかいかた ・てがみのしまいかた ・くつばこへのくつのいれかた ・てあらいばのつかいかた ・といれのつかいかた ・かえりのしたくのしかた ・ろっかーのつかいかた ・じょうずなはなしかた ・じょうずなきかた ・いすのすわりかた ・ろーかあるきかた ・みんなであそぶあそびかた	・あさのしたくのしかた ・あさのかいのすめかた ・1にちのよてい ・えほんのよみきかせ ①こくご（10分ぐらい） 「リズムであいうえお」 ・五十音を声に出して言う。 ・順番に声に出して言う。 ②音楽（15分ぐらい） 「リズムで遊ぼう」 ・歌に合わせて、リズム打ちを楽しむ。 ・全体で、個人で、グループでリズム打ちをする。

朝の会の 15 分と 1 時間目の冒頭の時間を使い、児童が落ち着いて活動できるよう、ゆったりとした時間を設けた。45 分間の授業時間を 10～15 分程度の短い単位に分割し、活動内容や教科を切り替えることで、児童が集中しやすくなった。短いスパンで活動することで、前の活動でつまずいても次の活動で気持ちを切り替えやすく、ネガティブな感情を引きずりにくくなった。また、10～15 分ごとの目標を次々と達成することで、小さな「できた！」という成功体験が積み重なり、児童の自信や意欲の向上につながった。児童の意欲を大切にし、自らの思いや願いを実現する活動

をゆったりと進めることで、特定の活動への苦手意識が薄れ、得意な活動が増え、全体的な学びへの意欲も高まった。

4 具体的な取組②:わかりやすい表示

●絵カードの活用

耳から入る情報よりも目で見た情報の方が理解しやすい児童がいるため、絵とひらがなで説明した絵カードを黒板に貼り、朝の支度をスムーズにできるよう工夫した。絵カードには、①あいさつをする、②座席につく、③名札をつける、④連絡帳を提出する、⑤ランドセルをロッカーに入れる、⑥待っているときは塗り絵やお絵描きをする、⑦トイレに行く、⑧手洗いをするの 8 項目を示した。



行動や場面の切り替えが難しい児童にも、絵カードや写真などの視覚情報を活用することで、次の行動を促しやすくなった。口頭指示よりも絵カードの掲示が自分から行動するきっかけとなっている。



朝の会では、絵カードを掲示し、毎日 2 人ずつ日番が進行係を担当し、健康観察で友だちの状態を一言で伝える機会を設けた。その後、ひらがなの学習に合わせて朝の会の進め方のマニュアルも作成した。

●提示用大型モニターの活用

ウェブコンテンツを活用した。入学当初は、「NHK for School」の「で～きた」を視聴した。この番組は、集団行動、マナー、社会的スキルをよりわかりやすく自発的に学ぶ形式になっている。番組の主人公と一緒に振り返ることから、自ら気づくことも増えた。

児童は他の活動についても動画を大型モニターで視聴した。具体的な様子を示すことで活動内容を理解し、落ち着いて活動することになった。

5 具体的な取組③：協力体制づくり

●教員による指導体制

入学式の翌日から4月末までの期間は、1学級の指導を2人の教員が指導する体制とした。学級担任ともう一人の教員での同室複数指導である。2つのパターンできめ細やかな指導ができるように工夫した。

①音楽科と図画工作科の専科教員がT1(主たる指導者)で指導し、学級担任がT2(補助・支援する指導者)で指導する。

②それ以外の教科等は、学級担任がT1(主たる指導者)で指導し、もう一人の教員がT2(補助・支援する指導者)で指導する。

下記の表は、第2週のびのび1年生の週
しゅうよてい

	4月14日	4月15日	4月16日	4月17日	4月18日
あさ	月(げつ)	火(か)	水(すい)	木(もく)	金(きん)
	わくわくたいむ				
	あさのかい・けんこうかんさつ				
1	こくご	せいかつ	せいかつ	こくご	どうとく
	としよつにいがう	じこしょうかい	でーきた	かくことたのしいな	こんなときどうする
	としよつ ○○○○せんせい	1くみ ●●●せんせい	しちようかくしつ ○○○○せんせい	1くみ ●●●せんせい	しちようかくしつ ○○○○せんせい
	5ふんやすみ				
2	おんがく	ずこう	さんすう	おんがく	ずこう
	はじめよう!おんがく	ねんどあそび	どちらがおおいかな	はじめよう!おんがく	はさみをつかって
	1くみ ◆◆●せんせい	1くみ ◇◇◇せんせい	1くみ ●●●せんせい	おんがくしつ ◆◆●せんせい	ずこうしつ ◇◇◇せんせい
	20ふんやすみ				
3	こくご	がっきゅうかい	こんだんかい	せいかつ	せいかつ
	じぶんのなまえ	みんなであそぼう	DVDをみよう	きゅうしよくとうばんの やりかたをしろう	はるを さがしにいこう
	1くみ ●●●せんせい	たいいくかん ●●●せんせい	しちようかくしつ きょうとうせんせい	1くみ ☆☆☆せんせい	うんどうじょう ○○○○せんせい

予定である。印刷をして児童に配り、保護者にもわかるようにした。

専科教員は、それぞれの専門分野(音楽の表現、図画工作の創造性など)を通して、児童の個性や能力を引き出すことに長けている。さらに、教科固有の活動における児童の反応、発想、集中力、表現方法などから、学級担任とは異なる側面の実態を把握できる。学級担任は、専科教員の指導や児童への声かけ、活動への促し方などを間近で見ることで、「なるほど、子どもはこういう時に集中するのか。」「こんな表現方法もできるのだ。」といった新たな気づきが得られた。これまで、見えていなかった児童の一面や潜在能力を発見し、児童の実態をより多角的に把握することにつながった。

学級担任は、音楽科の学習で発言が少なかった児童が図画工作科の学習で生き生きと活動していることに気づけば、その子の得意な表現活動を他の教科でも取り入れ、指導の幅を広げることができる。児童の内面を理解するひとつの手立てにもなった。

音楽科と図画工作科以外の学習では、生徒指導教員、児童支援教員、特別支援教育の教員が同室複数指導にあたった。児童も学級担任以外の教員との関わりの中で、自分の得意なこと、苦手なこと、表現方法などについて、より多角的に認識できる機会となった。学級担任だけでは見えにくい児童の一面や特性が明らかになり、学校全体で共有することができた。

●6年児童の協力

5月に入り、異学年交流の一つとして、1年生と6年生が運動場で交流した。遊びの中で6年生は1年生に優しく接し、頼られる存在になろうという意識が随所に見えた。1年生は触れ合いから気づきや学びなど得ることが

たくさんあり、自己理解を深め、成長していくための糧となった。



●教育委員会事務局支援によるタブレット学習の開始

宝塚市では6月から、児童のタブレット操作習得を支援するため、教育委員会事務局の指導主事が来校する体制を整えた。児童は新しい学習道具に意欲的で、複数教員等の指導・支援により、持ち方、起動、ロック解除、タップ、終了操作を導入段階で習得している。

1か月後には国語・算数・生活科で円滑に活用できるようになった。支援の成果として、児童はタブレットをスムーズに活用している。



5 まとめと今後に向けて

●成果

スタートカリキュラムは、カリキュラムマネジメントにおける「小学校入学当初の接続」を具体化する実践であり、教員・施設・教材・時間・地域人材など学校の多様な資源を最大限に活用して最適な学習環境を整えた。登校しぶりや集団生活への不安を抱える児童に対して、保護者からの情報を学級担任だけでなく1年生指導の教員とも共有する体制を構築した。

複数の教員やボランティアが児童のそばにすることで、早期の指導・支援が可能となり、つまずきや困り感の早期発見につながった。多様な大人の視点から見守られ評価される安心感が、児童の自己発揮を促進する成果を生んだ。

●課題

幼児期から小学校生活への円滑な移行は、子どもがこれまでの経験を生かし、新しい環境で自信を持って学ぶ基盤づくりである。本年度のスタートカリキュラムでは、1年生の円滑な学校生活を支える指導・支援体制の整備に注力した。適切な環境との出会いは自発的な学びを促し、学校全体で児童の見取りと支援を考える機会となった。今後も、発達段階や成長に応じた毎日の指導計画を着実に積み重ね、安心して学びに向かえる児童の育成を目指していく。

架け橋カリキュラムの実施にあたっては、子どもが安心して遊び・学ぶことのできる環境を整えていくことが重要です。

幼児期の教育は、環境を通して行う教育を基本とし、幼児が保育者に支えられながら、自分の力で遊びや生活をつくっていくことができるように環境を構成しています。

小学校教育においても、児童が安心感を持ち、自分の力で学校生活をつくっていくことができるように、児童の実態を踏まえ、人間関係が豊かに広がること、学習のきっかけが生まれることなどの視点で環境を絶えず見直すことが大切です。